

『音楽の友』2016年3月号 p. 176

第13回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン

オラトリオ《イエフタ》全曲公演

ラ  
ヘンデル・フェスティバル・  
オ  
ジャパン「オラトリオ《イエフタ》」

1月11日・浜離宮朝日ホール●辻裕久(T)、富山みずえ、広瀬奈緒(以上S)、波多野睦美(Ms)、山下牧子(A)、春日保人(Bs)、川久保洋子(コンサートマスター)、懸田貴嗣(Vc)、三澤寿喜(指揮)、キャノンズ・コンサート室内合唱団&管弦楽団●ヘンデル「オラトリオ《イエフタ》」

ヘンデル・フェスティバル・ジャパンがヘンデル最後のオラトリオ《イエフタ》に取り組んだ。新ヘンデル全集楽譜による日本初演である。三澤寿喜の指揮、キャノンズ・コンサート(古楽器の管弦楽団、合唱団)

ら。戦いの勝利と引き換えに帰還後最初に見た者を神への捧げものにする。と誓ったイスラエルの指導者が見たのは実の娘だったという、旧約聖書のイエフタの物語による全3幕。ほぼ毎年聴いているが、年々管弦楽と合唱の美力が上がり、入念に仕上げられた表現と相俟って、今や欧州の基準に照らしてもかなりの高水準。自然で淀みない音楽の流れや繊細かつ大胆に示される音楽的事象、言葉と音楽の関係等を通して同曲の魅力が明らかにされ、まことに味わい深い。ソリストは全員邦人歌手。特筆すべきはイシス役の広瀬奈緒。1幕から艶やかな光沢と輝きのある美声と情感豊かな歌唱を聴かせ、3幕のアリアへさよなら、清く澄んだ泉よ川よは豊かな響きに加え、死を決意したイシスの凛とした清らかな心を伝えて感動的だった。

●那須田務